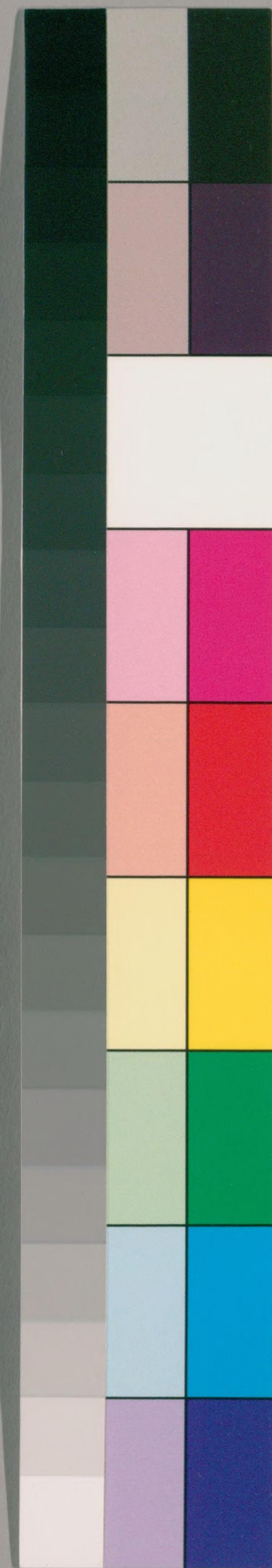


夢窓国師道歌集

188.84  
So654m2  
W













序二  
よき人の歌をよむは心おほし  
よき人の歌をよむは心おほし  
よき人の歌をよむは心おほし  
よき人の歌をよむは心おほし  
よき人の歌をよむは心おほし  
よき人の歌をよむは心おほし  
よき人の歌をよむは心おほし  
よき人の歌をよむは心おほし  
よき人の歌をよむは心おほし  
よき人の歌をよむは心おほし

よき人の歌をよむは心おほし  
よき人の歌をよむは心おほし  
よき人の歌をよむは心おほし  
よき人の歌をよむは心おほし  
よき人の歌をよむは心おほし  
よき人の歌をよむは心おほし  
よき人の歌をよむは心おほし  
よき人の歌をよむは心おほし  
よき人の歌をよむは心おほし  
よき人の歌をよむは心おほし















うなももほに燕石とて  
長のかつら  
ほもあつら  
え縁中あゆら  
は源祐母養ふま  
ら

佛國禪師の詠

額

これほのうら心徳のや海さうら  
ねとつら

見解れあつら

判續古今和歌

杉くさつら

うなももあつら

金酒の山ゆに居むとひく竹松ま







日之影とくも影の影なり

本末成佛の心を

雲とわく後ののいふまじゆあは  
わくまじゆあはまの月

月入滅ちるあはくはまじゆあは

月がくはくまはくはまじゆあは

かこまはくはくまはくはまじゆあは

月光似雪と云纏ゆく

月影の影の影とくまはくはまじゆあは  
少しあはくはくまはくはまじゆあは

願とくは

いはくはくまはくはまじゆあは

あはくはくまはくはまじゆあは

家鳥あはくはまじゆあは

わのあはくはくまはくはまじゆあは

あはくはくまはくはまじゆあは



余願の山の中へ一庵を結ぶまじらひ

けらふ

風雅雜中

孝風雅

まればよりに世にいとあふしゝのいぢま  
やうのしりやうのまゝのまゝ

建長寺と老小西勝園寺に禪門

うりや禪にやされまゝの禪にや

わさてりまかりい入えのみまはく  
世一所りそなげにこそと

ちりふふひく禪にや

何れもく暖より行ま

世の山よりてまはりにく海に

人よわしき

影よ

かゝるも人れはあまよゆに

りこつてあまもち

よりあはれをたてんた



らの身はものすしはかり

廣天澤得解かり

わし行き

野はちれまきりしは牛を

くらあゆむじはゆさのあから

輪廻と云んを

あつた乃たれもれもとらて

まふらきしはひ乃と枕

エ夫用は代償のさひ申りん

はとらさしおりのとさし

くしつさうわそり<sup>う録</sup>あ

顔あつた

夜<sup>几</sup>雅歌教

このよろをさしはりの跡

うしはきあのはたをひらうて

まふらきしはひ乃と枕





かきつばたのうらみ

かきつばたのうらみはたのうらみ

かきつばたのうらみはたのうらみ

かきつばた

かきつばたのうらみはたのうらみ

かきつばたのうらみはたのうらみ

かきつばたのうらみ

かきつばたのうらみはたのうらみ

かきつばたのうらみはたのうらみ

かきつばた

かきつばたのうらみはたのうらみ

かきつばたのうらみはたのうらみ

かきつばたのうらみはたのうらみ

かきつばたのうらみはたのうらみ

かきつばたのうらみはたのうらみ

かきつばたのうらみはたのうらみ



多きしまつけのしる窓よりはよ物さ移く  
風あつ松の雪あつし世は

正覚法師のちのちといふまは  
よとよじのめさるりれやん飛！  
く多世ふしれありやんやん

正覚法師御詠

甲列あもゆきけの水と河海と  
山中の雪をよれきさご十里らる  
りそあれ其あつ雪あつしる  
と結くすみ行ひもるん度れ葉の  
なれ雪のしるそ人のあつ  
あつあつしるけはよんあつ  
のう巻とよりしりたもれあく

風雅雜上





序一わしあふれしつゝ

相列之浦れをすつゝ所より

海わさるゝとくつゝ浦に居る云

菴としつゝひてまふぬゆい

より行ひけ

ひくしあふ浦と城のねきりして

ひつゝもえしつゝつゝこれ

強名亞相 武衛 直義 相馬 院 門 宗 元

和あふ會れあふりふ来臨法は乃

後嵐山れなとんくあふのんく

歌ふふさつ

それりれはしつゝはあふ

よら乃つゝとんぬ人もあふ

又あふつゝひく

られつゝつゝのつゝつゝ

わつゝつゝつゝつゝつゝ



りはと又らむいさくはしんし  
たつらふしひよはまはまは  
んかたの身めうたふさあ  
りれしなうとさうらうか  
さくしんれ南のしりしら  
風れさうせそちりひり  
いまんれいせわれあし  
うたく又らぶゆもあられ

征夷將軍

尊氏

西芳寺カ花ねさうふ

かりて法鏡の後平しんま

んあねんカとひうなまふら  
けしうさうれ科子あそ

花のさうりに西芳寺し  
とまはしんらうらけ  
らうそのひめまふも  
ちばえしあいて







新拾遺雜上

ゆし乃人まなまけまきあら  
さく花いしまき色びつー花いりなむ  
月の身りりしおいうる祭あはれ  
身若く後在れもまよひけむ  
ゆしそられ後のまよひくはりく  
あしりり万しこむ花をまらうか

西芳精舎ー花きりあめくま様の位  
飛 敷覧よりまき聖日にそまらう

りり

竹林院内左伝

先うー花あつんあさしよまらうあま  
らあむさうーれあむんかーつね

はかりー

花あくのさゆ花ーあま若く身り  
あむれまはれ色まらうか

これ贈る子見人まらうー

仙回亭をばはあまらうー















行は急乃重ばしねはあはれきらん  
おまふれを老をかあしふ

とま九月晦日己刻入滅一終まり

雲の夜とりふまは

おまふれはひまもなれましく霞はあは  
おまふれと月乃きしかなあまふれ

山家歌ふとりふまは

かたにはお新踏のふれりしあふり

里よりあまふれをまはし

彈正親王光厳時勢とさうり

歌ふれをさうり

おまふれあふれをまはし

のこまふれをまはし

武末末代の夏月とさうり

おまふれあふれをまはし

おまふれあふれをまはし



納涼子

くれぬまよゆゆきののめそと記をらて  
あこまよしーきと若河まふの

類本紙

山あひのふれまはたきしきみしーあま  
りばあまのふい若かけを庵

其のわし侍者よしくけしーまーり

法園覚ちは出くおくれ方巡禮ー

わひて門あしと山中ー庵を結て

あこまよゆゆきののめそと記をらて

あこまよゆゆきののめそと記をらて

のれまよゆゆきののめそと記をらて

あこまよゆゆきののめそと記をらて

二階堂出舟入道乃蘆亭下く中納言

為相つ曉月房竹垣あま入道り

あこまよゆゆきののめそと記をらて





く中假有生穢と云題あり

夜れれと色くをひつてつるあつむ

雲のほひり少くは月影

題一

世よそしく故にけりあつとあつと

月あや志し身をたれし海

今いともくちりよあつとあつと

のつれいといふくちりよあつと

風雅釈教

いほりいほりいほりいほりいほり

いほりいほりいほりいほりいほり

いほりいほりいほりいほりいほり

いほりいほりいほりいほりいほり

芳林茂 此録は傳説く芳林茂

いほりいほりいほりいほりいほり

いほりいほりいほりいほりいほり

信泉院一貫行ひとら一貫寺













とらぬそ人乃たさけりおあまら

又徳倉のうらわのたのしみとて

菴乃わらふとて一夜とゆりそあま

きふおあま松風よもいふさあれた

日つとたはよまふまんの人のさひ

身いささそまらおあまの世

相模國よたてとらとて入温泉よ

里行のまら雨よの山とてたて人里

は、ぬきあつたのそとあれん

乃菴のそとくすんかともあつた

たけくすあつたあつたあつた

古歌よかられまらあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた



夢のぞいふはあまもむしあ  
びつしすに山うけを庵

相列三浦のまをうと云あよりの海  
おのそみく浪松庵とてすみ結  
山孫仲納言為相の被訪来をうとる  
あまくとりいりし行まをうに  
あまのしをう

かうよはむしりあをうとてうまをう

あまう海あへまうらわぬ

お櫃

あまうあをうらわぬ  
うひ屋すにわをうまをう

又三浦松庵をすて総行へおり

けら河其庵の楳好あをうまをう

安曇松目貞連あをうまをう

うかすしあをうまをう



わろそし又阿まそらんひ

濃列後あそふわよ度所終くと終

りるよそとすして行

既雅雑中

いそきじかかくまきほそくはらん

こゝろんあふまきしそとふかりいふ

た武衛將軍西芳社念よ奉院法蓮の

後人ノ、あふまきと決ふ

まねはしそひらほれよの何とそね

さしーしそ世よ山よ子の庵

花之野しつ小尾寺れ長老わの園ん解ふ

よせよこくまてあつしけ

とらそら力海いふよはるそつし

ねれーああふ月まそ世いんそ

いそ

あそいあうそわねらんーねれらああ

あそいあうそわねらんーねれらああ



相列に河原の母儀佇立お小條に  
すみまらぬよきもて返つてれま  
あゝ海にまきうらん山花をうら  
まじうひそくし夢の世れ中

ふれ方の世はそしく新あゝ海に  
り来しつれ山花にうらま  
とよみ居るこゝとよみあゝ

あや

あや

夢の世に於ちふらに世はなほ  
あやとにらぬ山にかられよ

総列の退陣度一福しうひそく  
あやと来くあはれ海舟のあや  
あやと来くあやと来くあやと来く  
あやと来くあやと来くあやと来く

あやと来くあやと来くあやと来く







即ちさるれ智軒のまのむせ

甲列少意ゆき川の水をすすむ行

けの法

なれては里といはる御の門

世はいつふ身も終はらうし

世言石鏡之鏡迦葉不聞之聞や

いふらむと

新拾遺釈教

さるくしとまことしやぬみとのまを

きつてしとびく人をすくあま

新<sup>ま</sup>佛のうらむ

しをひしとくおまこつかまれと

ちかると乃おれあまあまや

無輪廻中喜見福道のんま

よまを海にけりたときをうけはれ

ま流る移やのうらむありま祭

彈正親王南条寺いかりて法鏡

十九





のしらふとてしほひきかほし

さほしとて人のかきあふ身とてなりて

若くはのまふとてしほひきかほし

はのひなとてあつかりなむ身とてなりて

世れらとてあつかうらむとてなりて

釈教と

あつかりとてあつかうらむとてなりて

まふとてあつかうらむとてなりて

善なるれがとてしほひきかほし

わがなりとてあつかうらむとてなりて

りありとてあつかうらむとてなりて

後醍醐院はけし金剛山とて云ふありて

合我ありとてあつかうらむとてなりて

合我ありとてあつかうらむとてなりて

あつかうらむとてなりて

いかにあつかうらむとてなりて





のうらみもせんみはなせとちりしひかん

雑言

いしのまゆしとくしうつゆのまゆね  
これやしひまのなすいあかん  
月影しうつしあしきみ人あられ  
ゆふれおひさ身といふまじ

花びらのあしあまきさるるまれくれ  
まうと庭よのさうしうらむをねりて

お軍へかきしゆつれまの園をまへ  
たまひまき

はつららりてつたれしとをわりのみ  
りべうれねしまはわりのみ

有馬の温泉は流しぬるまをたの  
その山れぬかよまをたれわりのり  
横してゑとをぬくをわりのあま  
はらへしとくしうつゆのまゆね





きふりてふれわり解しなむあしきま  
佛のたふさむはるやゆさうん

あやうはうま行まきと折しくさ

はらへてあか塗あうるりしの料

とくくあんきくせよのひり

ゆきまきくわりと

土岐伯耆前句八道存孝ふん

由けりけり十首の歌乃五贈

存孝

けりふゆき河うさうふてん

まじうぬらちやほとがらん

四

あしうたねむむくまじうあふ

いはきしあめさうひなりま

とら

まの世におのふしよのゆ



ゆゑのうはくしなりしと記くむは  
夢の中よりゆかりと記のふし夢を行き  
ゆかりをよまうひとくあしあがり  
花乃及月のひうりはあまれとし  
るものはいまうらうらむ  
さゝね花いとわが目をこころに  
こころよからんまほしき  
いはくすうらじはむらうらむ

かゝる心と記すは  
あゝかゝる心と記すは  
うらむと記すは  
まろと記すは  
なほと記すは  
ゆはと記すは  
おゆと記すは  
いふと記すは

三十三



新後拾遺歌集

上へてはそとて雲の如く  
雲よりしそとていとくし出くは

まはしし心へはめくわきと

いほくくしむふ山らのありて

そよめを方をもくやまむ

めはくまひくしふ山らけ奥くしあむ

くしそとてそよめはありまむ

あらしそとて身をそよめはありまむ

わがしゆをそよめはありまむ

はらへてあくしそとてそよめはありまむ

そよめはありまむ

まはしし心へはめくわきと

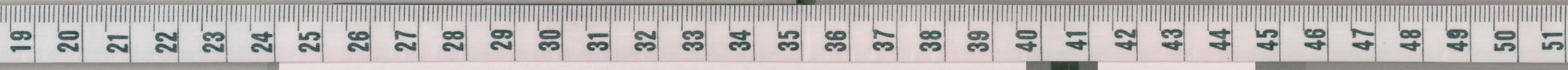
あらしそとてそよめはありまむ

あらしそとてそよめはありまむ

あらしそとてそよめはありまむ

あらしそとてそよめはありまむ

四十一

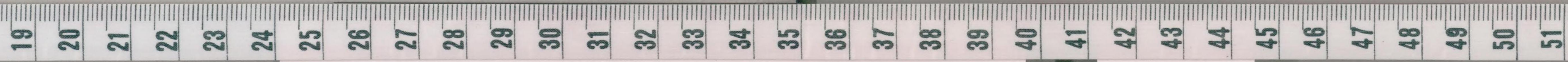




かき書かれ秋しなりあつしとむじ  
おもひかたけころ下りてをかき書かれ  
あつし草書かれも秋の夕

うしあし乃ちあつし乃ちころをむしとむ  
ころをむしとむすしとむむしとむ  
あつしとむむしとむむしとむむしとむ  
あつしとむむしとむむしとむむしとむ  
あつしとむむしとむむしとむむしとむ

たほあつしとむむしとむむしとむ  
あつしとむむしとむむしとむむしとむ  
あつしとむむしとむむしとむむしとむ  
あつしとむむしとむむしとむむしとむ  
あつしとむむしとむむしとむむしとむ  
あつしとむむしとむむしとむむしとむ  
あつしとむむしとむむしとむむしとむ  
あつしとむむしとむむしとむむしとむ  
あつしとむむしとむむしとむむしとむ  
あつしとむむしとむむしとむむしとむ





世のうき夢時をばしのひはくさぬ  
石のうき城あくさじとつよらの子に  
身とまはるはなほりとも  
あはれはやまらめいりあされおく  
所りともあはれをすくはるや  
身とくはるはなほりとも  
あはれはやまらめいりあされおく

願志

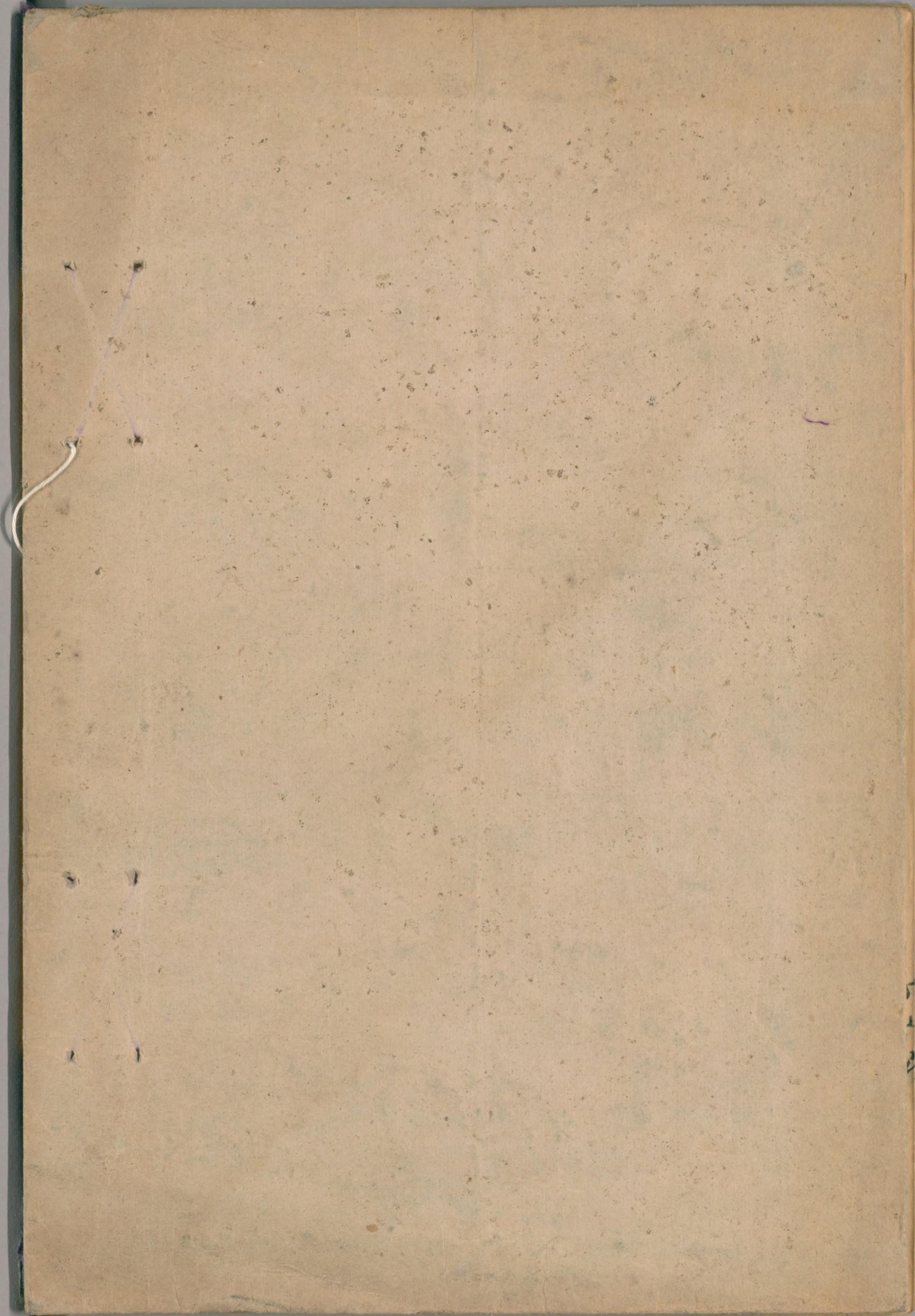
此一首耕芸の本をて追記す

新後拾遺雜下  
世をよそへばはるがらぬあはれは  
月しるはるやあはれは



住友務氏寄贈書





国立国会図書館

タイトル『夢窓国師道歌集』 請求記号 188.84-So654m2

ガラス使用